

新人保育者に対する評価
 ～前々年度と前年度との比較を通して～
The Evaluation of Newcomer Childcare Workers
 ～Through comparison with the results in previous years～

高岡 昌子・岩本 健一・高橋 千香子・林 悠子
 Masako TAKAOKA, Kenichi IWAMOTO
 Chikako TAKAHASHI, Yuko HAYASHI

要旨 (Abstract)

本研究では、高岡他 (2017, 2018)¹⁾ に引き続き、平成29年度のN短期大学部卒業生が就職先において新人保育者としてどのような評価をされているのかについて調べ、各評価項目と総合的な評価との関係について調べた。その結果、平成27年度から平成29年度の3か年で見ると、全体的に保育現場での卒業生の評価は明らかに上がっていた。保育者としての各評価の平均値や総得点も平成27年度から平成29年度の3か年で上がっていた。また卒業生の現況についての満足度も、本学卒業生の保育者としての将来性についてどのように感じられるかの程度も平成27年度から平成29年の3か年で明らかに上がっていた。一方卒業後における新人保育者としての総合的な評価得点・各項目における評価得点と在学中の累積GPAの値との相関はみられなかった。今回はさらに各教科の成績と職場からの満足度との関係を見たが、ほとんど相関はなく、保育実習等の学外実習の成績との相関もみられなかった。しかし「子ども学ゼミ」の成績だけが職場からの満足度と相関 ($r=0.6$) があった。

キーワード：新人保育者に求められる資質、新人保育者としての評価、保育者養成校における課題、GPA・各教科の成績と職場での評価との関係

1. はじめに

保育者に求められる資質について、多くの研究がなされてきた (前迫他 (2004)³⁾、林他 (2012, 2014, 2016)^{4) 5) 6)} や高岡他 (2017, 2018)^{1) 2)} など)。高岡他 (2018)²⁾ では、それまでの研究成果を教員間で共有し、教育改善を図った結果、全体的に評価は上がっているようであったが、顕著な結果は得られなかった。本研究では、平成29年度の本学卒業生の保育者としての就職先に対して行ったアンケート調査結果から、各評価項目と総合的な評価 (現況での満足度や将来性があると感じること) との関係について調べ、どのような内容が総合的な評価につながるのかについて調べた。また全体的に高い評価を得た新人保育者と、全体的に低い評価であった新人保育者についての自由記述内容を調べ、保育者養成校における今後の教育に活かすことのできる情報を得たいと考えた。さらに卒業後における新人保育者としての総合的な評価得点・各項目における評価得点と在学中のGPAの値との間に相関があるのかを調べるだけでなく、今回は各教科と職場での評価との相関も調べ、今後の指導に役立てていきたいと考え

ている。また、これらの一連の内容について、平成27・28年度の卒業生における結果と平成29年度の卒業生における結果を比較して、教育効果に関する省察を行いたい。

2. 方法

2.1 調査内容

N短期大学部では、授業や就職指導のより一層の改善を図ることを目的とした現状把握のため、「卒業生の現況に関するアンケート」と題して卒業生の就職先に対してアンケート調査を毎年行ってきた。おもな内容は「1. 在職状況について」「2. 保育者としての姿勢について」「3. 保育の実践力について」「4. 職場でのコミュニケーションについて」「5. 本学卒業生の勤務状況について」「6. 本学卒業生の総合的な評価について」の6つの観点による質問項目について4件法で回答を求めた。そして最後に「上記内容も含めて、本学への要望等お書きください」として自由記述を求めた。本稿では、保育者の資質についてみるために、アンケート中、「2. 保育者としての姿勢について」「3. 保育の実践力について」「4. 職場でのコミュニケーションについて」「5. 本学卒業生の勤務状況について」と、特に「6. 本学卒業生の総合的な評価について」の項目を取り上げた。この「6」では、卒業生に対する満足度と将来性について問いかけている。

2.2 調査対象・調査方法

平成30年10～11月の期間に、平成29年度末の卒業生で保育者として就職している53名の就職先47ヶ所（幼稚園・保育所・認定こども園・児童福祉施設など）の園長ならびに施設長宛てに卒業生の「卒業生の現況に関するアンケート」を郵送し、記入後に返送していただくことで、卒業生42名分（幼稚園9名分・保育所16名分・認定こども園7名分・施設10名分）についての回答を得た（回答率79.2%）。

2.3 GPAの算出方法

平成30年3月に卒業した時点までの全成績から算出した全教科累積GPAの値を使用した。（GPAとは「Grade Point Average」の略であり、各履修科目のグレード・ポイント（秀4、優3、良2、可1、不可・失格0）に科目の単位数をかけた値を全履修科目分を合算し、その値を全履修科目の単位数の合計で割ったものである。）

3. 結果

3.1 総合的な評価

まず職場での評価による総得点112点満点中の平均総得点では、平成28年度卒業生では77.7、今回（平成29年度卒業生）は83.0であるが、t検定したところ有意差はみられなかった（ $p=0.18>.10$ ）。しかし、平成27年度卒業生では74.3で、今回と比較してt検定したところ有意差がみられ（ $p=0.04<.05$ ）、この3年で漸く全体的に職場での評価が上昇していることが明らかになった。平成29年度卒業生の職場での評価の平均も3.07で、平成28年度卒業生の職場での評価平均2.84とは傾向（ $p=0.07<.10$ ）にとどまったが、平成27年度卒業生の職場での評価の平均2.80とは有意差があり（ $p=0.04<.05$ ）、平成27年度から平成29年度にかけて明らかに評価は上がっていたことがわかった。

総合的な評価としては、現況の満足度と将来性があると感じるかどうかに関する評価を得た。満足度については「6-1現時点での本学卒業生の現況について満足されていますか。」という質問であり、「十分満足できる」4点、「まあ満足できる」3点、「あまり満足できない」2点、「ほとんど満足できない」1点として、結果は平均3.42点で、

前回における平均3.09点と比べて上昇していた ($p=0.05 < .05$)。また将来性については「6-2 本学卒業生の保育者としての将来性についてどのように感じられていますか。」という質問で、将来性が「十分ある」4点、「まあある」3点、「あまりない」2点、「ほとんどない」1点として、結果は平均3.59で、前年度の将来性3.30点とは傾向 ($p=0.10 > .10$) にとどまったが、平成27年度卒業生の職場での将来性3.13とは有意差があり ($p=0.02 < .05$)、平成27年度から平成29年度にかけて明らかに卒業生から感じられる将来性も上がっていたことがわかった。

3.2 各項目における評価

図1は、平成29年度卒業生に対する保育者としての勤務に関わる各項目（アンケートの内、28項目）の園側からの評価について、その平均値の高い項目から順番に示した図である。図1に示すように、今回評価が最も高かった項目は、前年度も1番目で平均3.30であった「6-2 本学卒業生の保育者としての将来性についてどのように感じられますか。」であり、今回は平均3.59であった。2番目に評価が高かった項目は、前年度3番目で平均3.21であった「3-14子どもや保護者の個人情報について留意していますか。」で、今回は平均3.45であった。3番目に評価が高かった項目は、前年度8番目で平均3.09であった「6-1 現時点での本学卒業生の現況について満足されていますか。」で、今回は平均3.42であった。前年度2番目に平均3.27で高かった「2-1 保育者としてふさわしいマナー（身だしなみ、態度、言葉遣い）ができていますか。」は、今回4番目で平均3.38であった。

これらに対して最も評価の低かった項目は、前年度2番目に評価が低く、平均1.82であった「3-13保護者に育児不安等が見られる場合には、育児等に対して相談・助言ができていますか。」であり、今回は平均2.33であった。その次に低かった項目は、前年度1番目に評価が低く、平均1.79であった「3-5 日々の保育で曲想をとらえてピアノ伴奏をしていますか。」であり、今回は平均2.42であった。

3.3 各項目における評価と現況における総合的な評価との関係

前節で取り上げた満足度と将来性という総合的な評価につながる力との関係について知るために、詳細に分けた個別の評価との相関を算出した（表1）。

3.3.1 各項目における評価と現況における満足度との関係

表1に示すように、満足度と最も関係の深い項目は、「3-6 子どもの生活や遊びの観察と分析ができていますか。」（相関係数0.69）であった。2番目に満足度と関係の深い項目は、「3-4 子どもの発達に合わせた働きかけができていますか。」（相関係数0.69）であった。3番目に満足度と関係の深い項目は、「3-3 子どもを理解し、自ら関わろうとする積極的な姿勢をもっていますか。」（相関係数0.69）であった。

これらに対して、総合的な現況での満足度と相関係数の最も低かった項目は、「3-5 日々の保育で曲想をとらえてピアノ伴奏をしていますか。」（相関係数0.33（前回0.54））であった。2番目に相関係数の低かった項目は「3-14 子どもや保護者の個人情報について留意していますか。」（相関係数0.35（前回0.69））であった。3番目に満足度との相関係数の低かった項目は「3-7 保育理論を日々の保育に生かし工夫していますか。」は相関係数0.48であった。前回の調査で満足度との相関係数が最も低かった「3-13保護者に育児不安等が見られる場合には、育児等に対して相談・助言ができていますか。」は、今回は4番目で相関係数0.50（前回0.50）であった。

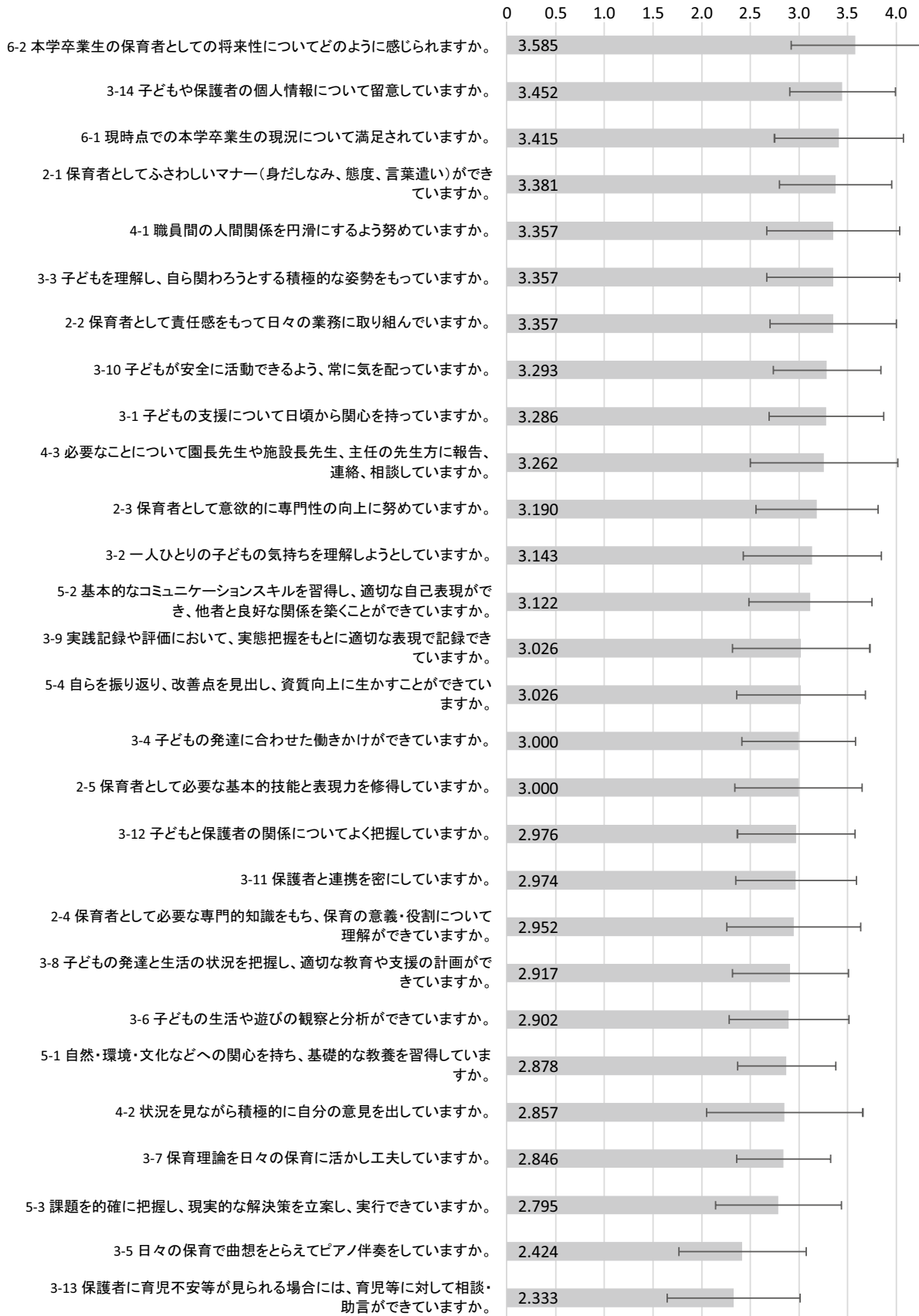


図1 平成29年度卒業生の保育者としての各評価（平均と標準偏差）(n=42)

3.3.2 各項目における評価と将来性があると感じることとの関係

表1に示すように、将来性があると感じることに最も関係の深い項目は、「4-1 職員間の人間関係を円滑にするよう努めていますか。」(相関係数0.70)であった。今回2番目に将来性と関係の深い項目は、「4-2 状況を見なが

表1 平成29年度卒業生の保育者としての各評価と総合的な評価との相関

	6-1 現時点での本学卒業生の現況について満足されていますか。			6-2 本学卒業生の保育者としての将来性について、どのように感じられますか。			満足度+将来性		
	相関係数 r	t値	p値	相関係数 r	t値	p値	相関係数 r	t値	p値
2-1 保育者としてふさわしいマナー(身だしなみ、態度、言葉遣い)ができていますか。	0.532	3.978	0.0003	0.549	4.159	0.0002	0.494	3.597	0.0009
2-2 保育者として責任感をもって日々の業務に取り組んでいますか。	0.616	4.950	0.0000	0.632	5.162	0.0000	0.681	5.875	0.0000
2-3 保育者として意欲的に専門性の向上に努めていますか。	0.686	5.965	0.0000	0.593	4.653	0.0000	0.677	5.823	0.0000
2-4 保育者として必要な専門的知識をもち、保育の意義・役割について理解ができていますか。	0.673	5.749	0.0000	0.682	5.896	0.0000	0.665	5.635	0.0000
2-5 保育者として必要な基本的技能と表現力を修得していますか。	0.644	5.321	0.0000	0.622	5.027	0.0000	0.751	7.196	0.0000
3-1 子どもの支援について日頃から関心を持っていますか。	0.566	4.345	0.0001	0.618	4.966	0.0000	0.663	5.600	0.0000
3-2 一人ひとりの子どもの気持ちを理解しようとしていますか。	0.564	4.316	0.0001	0.542	4.083	0.0002	0.693	6.080	0.0000
3-3 子どもを理解し、自ら関わろうとする積極的な姿勢をもっていますか。	0.693	6.073	0.0000	0.596	4.690	0.0000	0.687	5.984	0.0000
3-4 子どもの発達に合わせた働きかけができていますか。	0.694	6.094	0.0000	0.631	5.141	0.0000	0.691	6.043	0.0000
3-5 日々の保育で曲想をとらえてピアノ伴奏をしていますか。	0.328	2.198	0.0338	0.280	1.846	0.0723	0.314	2.093	0.0427
3-6 子どもの生活や遊びの観察と分析ができていますか。	0.696	6.138	0.0000	0.618	4.969	0.0000	0.685	5.953	0.0000
3-7 保育理論を日々の保育に活かし工夫していますか。	0.483	3.492	0.0012	0.501	3.666	0.0007	0.517	3.821	0.0005
3-8 子どもの発達と生活の状況を把握し、適切な教育や支援の計画ができていますか。	0.682	5.891	0.0000	0.660	5.560	0.0000	0.702	6.227	0.0000
3-9 実践記録や評価において、実態把握をもとに適切な表現で記録ができていますか。	0.676	5.801	0.0000	0.618	4.970	0.0000	0.680	5.866	0.0000
3-10 子どもが安全に活動できるよう、常に気を配っていますか。	0.536	4.015	0.0003	0.533	3.981	0.0003	0.557	4.245	0.0001
3-11 保護者と連携を密にしていますか。	0.552	4.188	0.0002	0.438	3.082	0.0037	0.520	3.853	0.0004
3-12 子どもと保護者の関係についてよく把握していますか。	0.635	5.201	0.0000	0.524	3.887	0.0004	0.604	4.797	0.0000
3-13 保護者に育児不安等が見られる場合には、育児等に対して相談・助言ができていますか。	0.496	3.615	0.0008	0.484	3.499	0.0012	0.506	3.714	0.0006
3-14 子どもや保護者の個人情報について留意していますか。	0.346	2.334	0.0247	0.330	2.209	0.0330	0.350	2.366	0.0229
4-1 職員間の人間関係を円滑にするよう努めていますか。	0.566	4.338	0.0001	0.698	6.168	0.0000	0.772	7.679	0.0000
4-2 状況を見ながら積極的に自分の意見を出していますか。	0.663	5.608	0.0000	0.697	6.141	0.0000	0.738	6.909	0.0000
4-3 必要なことについて園長先生や施設長先生、主任の先生方に報告、連絡、相談していますか。	0.576	4.460	0.0001	0.673	5.756	0.0000	0.741	6.982	0.0000
5-1 自然・環境・文化などへの関心を持ち、基礎的な教養を習得していますか。	0.518	3.829	0.0004	0.507	3.722	0.0006	0.535	4.001	0.0003
5-2 基本的なコミュニケーションスキルを習得し、適切な自己表現ができ、他者と良好な関係を築くことができていますか。	0.637	5.227	0.0000	0.587	4.589	0.0000	0.638	5.247	0.0000
5-3 課題を的確に把握し、現実的な解決策を立案し、実行できていますか。	0.618	4.975	0.0000	0.591	4.634	0.0000	0.631	5.148	0.0000
5-4 自らを振り返り、改善点を見出し、資質向上に生かすことができていますか。	0.669	5.696	0.0000	0.490	3.558	0.0010	0.606	4.815	0.0000

ら積極的に自分の意見を出していますか。」(相関係数0.70)であった。今回3番目に将来性と関係の深い項目は、「2-4 保育者として必要な専門的知識をもち、保育の意義・役割について理解ができていますか。」(相関係数0.69)であった。

これらに対して、今回の調査で将来性との相関係数が最も低かった項目は、前回と同様に「3-5日々の保育で曲想をとらえてピアノ伴奏をしていますか。」(相関係数0.28)で、前回の調査と同様に相関はなかった。2番目に将来性との相関係数の低かった項目は、「3-14子どもや保護者の個人情報について留意していますか。」(相関係数0.33)であった。3番目に相関係数の低かった項目は「3-11保護者と連携を密にしていますか」(相関係数0.44)であった。前回2番目に将来性との相関が低かった「3-13保護者に育児不安等が見られる場合には、育児等に対して相談・助言ができていますか。」は、今回は4番目で相関係数0.48であった。

3.3.3 各項目における評価と満足度・将来性の合計得点との関係

表1に示すように、満足度と将来性の合計得点と最も関係の深い項目は、「4-1 職員間の人間関係を円滑にするよう努めていますか。」(相関係数0.77)であった。今回2番目に関係の深い項目は、「2-5 保育者として必要な基本的技能と表現力を修得していますか。」(相関係数0.75)であった。今回3番目に関係の深い項目は、「4-3 必要なことについて園長先生や施設長先生、主任の先生方に報告、連絡、相談していますか。」(相関係数0.74)であった。これらに対して、今回の調査で満足度と将来性の合計得点との相関係数が最も低かった項目は、前回と同様に「3-5日々の保育で曲想をとらえてピアノ伴奏をしていますか。」(相関係数0.31)であった。2番目に相関係数の低かった項目は、「3-14子どもや保護者の個人情報について留意していますか。」(相関係数0.35)であった。3番目に相関係数の低かった項目は「2-1 保育者としてふさわしいマナー(身だしなみ、態度、言葉遣い)ができていますか」(相関係数0.49)であった。前回2番目に相関が低かった「3-13保護者に育児不安等が見られる場合には、育児等に対して相談・助言ができていますか。」は、今回は4番目で相関係数0.51であった。

3.4. 総合的な評価・各項目における評価得点と累積GPAとの関係より

全教科最終累積GPAの平均は、平成27年度卒業生で2.49、平成28年度卒業生で2.71、今回の平成29年度卒業生で2.69であり、さらに上がることはなかった。そして今回も表2に示すように、卒業後における新人保育者としての各項目における評価得点と在学中のGPAの値との相関もみたが、すべての項目において相関はなかった(表2)。これは、高岡他(2017, 2018)でも述べた前回の結果と同様の結果であり、在学中のGPAによって就職後の活躍を予測することはできないということを示しているといえよう。

3.5. 保育者としての総合的な評価と大学での各教科の成績との関係

表3に示す通り、今回はさらに大学での各教科の成績と保育者としての総合的な評価との相関を見たところ、ほとんど相関はなく、保育実習等の学外実習との相関もなかった。しかし「子ども学ゼミ」の成績だけが職場からの満足度と相関があった($r=0.6$)。

4. まとめと今後の課題

本研究では、高岡他(2017, 2018)¹⁾に引き続き、平成29年度のN短期大学卒業生が就職先において新人保育者としてどのような評価をされているのかについて調べ、各評価項目と総合的な評価(現況での満足度や将来性があ

表2 平成29年度卒業生の保育者としての各評価と総合的な評価と在学中G P Aの相関 r

	GPAとの 相関係数 r	t値	p値
2-1 保育者としてふさわしいマナー（身だしなみ、態度、言葉遣い）ができていますか。	0.034	0.215	0.831
2-2 保育者として責任感をもって日々の業務に取り組んでいますか。	0.165	1.057	0.297
2-3 保育者として意欲的に専門性の向上に努めていますか。	0.000	-0.003	0.998
2-4 保育者として必要な専門的知識をもち、保育の意義・役割について理解ができていますか。	-0.015	-0.097	0.924
2-5 保育者として必要な基本的技能と表現力を修得していますか。	0.000	-0.002	0.998
3-1 子どもの支援について日頃から関心を持っていますか。	-0.058	-0.370	0.713
3-2 一人ひとりの子どもの気持ちを理解しようとしていますか。	-0.165	-1.059	0.296
3-3 子どもを理解し、自ら関わろうとする積極的な姿勢を持っていますか。	-0.098	-0.623	0.537
3-4 子どもの発達に合わせた働きかけができていますか。	-0.036	-0.227	0.821
3-5 日々の保育で曲想をとらえてピアノ伴奏をしていますか。	-0.008	-0.054	0.957
3-6 子どもの生活や遊びの観察と分析ができていますか。	-0.091	-0.578	0.566
3-7 保育理論を日々の保育に活かし工夫していますか。	-0.170	-1.091	0.282
3-8 子どもの発達と生活の状況を把握し、適切な教育や支援の計画ができていますか。	-0.203	-1.313	0.197
3-9 実践記録や評価において、実態把握をもとに適切な表現で記録できていますか。	-0.129	-0.820	0.417
3-10 子どもが安全に活動できるよう、常に気を配っていますか。	-0.109	-0.696	0.490
3-11 保護者と連携を密にしていますか。	-0.106	-0.677	0.502
3-12 子どもと保護者の関係についてよく把握していますか。	-0.042	-0.264	0.793
3-13 保護者に育児不安等が見られる場合には、育児等に対して相談・助言ができていますか。	0.194	1.251	0.218
3-14 子どもや保護者の個人情報について留意していますか。	0.090	0.572	0.571
4-1 職員間の人間関係を円滑にするよう努めていますか。	-0.103	-0.653	0.517
4-2 状況を見ながら積極的に自分の意見を出していますか。	-0.083	-0.525	0.603
4-3 必要なことについて園長先生や施設長先生、主任の先生方に報告、連絡、相談していますか。	-0.113	-0.721	0.475
5-1 自然・環境・文化などへの関心を持ち、基礎的な教養を習得していますか。	-0.168	-1.078	0.288
5-2 基本的なコミュニケーションスキルを習得し、適切な自己表現ができ、他者と良好な関係を築くことができますか。	-0.256	-1.676	0.101
5-3 課題を的確に把握し、現実的な解決策を立案し、実行できていますか。	-0.313	-2.087	0.043
5-4 自らを振り返り、改善点を見出し、資質向上に生かすことができますか。	-0.117	-0.745	0.461
6-1 現時点での本学卒業生の現況について満足されていますか。	0.012	0.076	0.940
6-2 本学卒業生の保育者としての将来性についてどのように感じられますか。	-0.040	-0.253	0.802
6-1満足+6-2将来性	0.065	0.409	0.684
2-1から6-2までの総得点	-0.001	-0.009	0.993

ると感じること)との関係について調べた。それらの結果から主な結果について、以下に論じる。

平成27年度から平成29年度の3か年で見ると、全体的に保育現場での卒業生の評価は明らかに上がっていた。保育者としての各評価の平均値や総得点も平成27年度から平成29年度で上がっていた。「6-1 現時点での本学卒業生の現況について満足されていますか。」において、平成27年度から平成29年度で上がっていた。「6-2 本学卒業生の保育者としての将来性についてどのように感じられますか。」においても、平成27年度から平成29年度で上がっていた。しかし累積GPAの平均値は平成28年度と29年度で上がっていなかったものの、このような結果が得られたのは、毎年本就職先アンケートの結果を教員間で共有し、反省して省察を重ね、授業内容や教材研究、進路指導等の改善に努めてきた成果の表れと捉えたいものである(吉田ほか、2019)。⁷⁾ 特に進路指導においては、この調査を始めてから、学生の意志を大事にしながら、適性を慎重に見極め、就職後にミスマッチが起きないように、一層具体的に意識して気をつけられるようになったといえよう。

卒業後における新人保育者としての総合的な評価得点・各項目における評価得点と在学中の累積GPAの値との相関は今回もなかった。今回はさらに大学での各教科の成績と保育者としての総合的な評価との相関を見たところ、

表3 平成29年度卒業生の保育者としての総合的な評価と大学での各成績との相関

	6-1 現時点での本学卒業生の現況について満足されていますか。			6-2 本学卒業生の保育者としての将来性について、どのように感じられますか。			満足度+将来性		
	相関係数 r	t 値	p 値	相関係数 r	t 値	p 値	相関係数 r	t 値	p 値
日本国憲法	0.293	1.941	0.059	0.248	1.622	0.113	0.212	1.369	0.179
心理学	-0.062	-0.393	0.697	-0.193	-1.247	0.220	-0.059	-0.374	0.710
生命の自然誌	0.124	0.793	0.432	0.014	0.088	0.930	0.263	1.726	0.092
情報リテラシー	-0.079	-0.499	0.621	-0.141	-0.901	0.373	0.128	0.818	0.418
情報リテラシーⅡ	0.114	0.724	0.473	0.081	0.511	0.612	0.217	1.403	0.168
奈良文化論	0.071	0.451	0.655	-0.071	-0.451	0.655	0.137	0.873	0.388
人権論	0.017	0.110	0.913	0.093	0.588	0.560	0.015	0.092	0.927
ソーシャルスキル演習	0.081	0.513	0.611	-0.061	-0.386	0.702	0.011	0.066	0.947
英語(基礎)	0.042	0.266	0.792	-0.007	-0.043	0.966	0.139	0.888	0.380
英語Ⅱ(応用)	-0.145	-0.929	0.359	-0.186	-1.195	0.239	-0.103	-0.654	0.517
健康とスポーツ(概論)	0.021	0.135	0.893	-0.068	-0.429	0.671	-0.073	-0.464	0.645
健康とスポーツ(実技)	0.191	1.228	0.227	0.209	1.352	0.184	0.100	0.633	0.531
自然コミュニケーション演習	-0.241	-1.570	0.124	-0.289	-1.910	0.063	-0.078	-0.496	0.623
キャリアデザイン演習	0.122	0.778	0.441	0.074	0.471	0.640	0.189	1.216	0.231
キャリアデザイン演習Ⅱ	-0.303	-2.012	0.051	-0.303	-2.012	0.051	-0.303	-2.012	0.051
国語表現法	0.199	1.285	0.206	0.204	1.318	0.195	0.339	2.276	0.028
数学の基礎	0.000	0.000	1.000	0.000	0.000	1.000	-0.115	-0.733	0.468
音楽の基礎(理論・ピアノ実技基礎)	0.023	0.147	0.884	-0.057	-0.362	0.720	-0.087	-0.552	0.584
音楽の基礎Ⅱ(リズム合奏・ピアノ実技応用)	-0.096	-0.607	0.547	-0.091	-0.578	0.567	-0.147	-0.941	0.352
音楽の基礎Ⅲ(子どもの歌)	0.126	0.805	0.426	0.216	1.401	0.169	0.012	0.078	0.938
造形の基礎	0.083	0.527	0.601	-0.002	-0.012	0.990	0.096	0.610	0.545
造形の基礎Ⅱ	0.188	1.213	0.232	0.109	0.692	0.493	0.205	1.322	0.194
体育の基礎	0.283	1.868	0.069	0.147	0.939	0.353	0.411	2.847	0.007
体育の基礎Ⅱ	0.164	1.054	0.298	0.063	0.401	0.690	0.006	0.038	0.970
保育表現技術(音楽表現)	0.228	1.478	0.147	0.133	0.850	0.400	0.274	1.800	0.079
保育表現技術(身体表現)	-0.105	-0.667	0.509	-0.130	-0.827	0.413	-0.008	-0.049	0.961
保育表現技術(造形表現)	0.010	0.063	0.950	-0.010	-0.063	0.950	0.047	0.300	0.766
保育表現技術(言語表現)	-0.062	-0.393	0.696	0.007	0.043	0.966	0.058	0.368	0.715
保育者論	-0.099	-0.627	0.534	-0.059	-0.373	0.711	-0.138	-0.882	0.383
社会福祉	-0.184	-1.185	0.243	-0.201	-1.299	0.201	-0.191	-1.230	0.226
相談援助	0.047	0.296	0.768	-0.047	-0.296	0.768	0.070	0.447	0.657
児童家庭福祉	-0.159	-1.019	0.314	-0.141	-0.903	0.372	-0.059	-0.376	0.709
教育学概論	-0.140	-0.893	0.377	-0.099	-0.630	0.532	-0.111	-0.704	0.485
保育原理	-0.177	-1.139	0.262	-0.161	-1.030	0.309	-0.097	-0.615	0.542
社会的養護	-0.141	-0.903	0.372	-0.138	-0.878	0.385	-0.004	-0.026	0.980
社会的養護内容	0.239	1.559	0.127	0.174	1.120	0.269	0.559	1.671	0.102
特別支援保育	-0.116	-0.740	0.464	-0.194	-1.254	0.217	-0.113	-0.720	0.476
保育実習	0.059	0.376	0.709	0.087	0.550	0.585	0.141	0.898	0.375
保育実習指導	0.060	0.377	0.708	0.079	0.499	0.620	0.118	0.754	0.455
保育実習Ⅱ	-0.110	-0.698	0.489	0.021	0.131	0.897	-0.103	-0.652	0.518
保育実習指導Ⅱ	0.024	0.154	0.878	-0.024	-0.154	0.878	-0.062	-0.396	0.694
保育方法論	0.070	0.444	0.659	0.165	1.061	0.295	0.200	1.289	0.205
保育相談支援(含、カウンセリング)	-0.025	-0.159	0.874	-0.122	-0.778	0.441	0.054	0.345	0.732
幼稚園実習	0.093	0.593	0.557	0.019	0.121	0.904	0.030	0.188	0.852
保育の心理学	-0.049	-0.307	0.760	-0.151	-0.963	0.341	-0.039	-0.250	0.804
保育の心理学Ⅱ	-0.105	-0.666	0.509	-0.233	-1.516	0.137	-0.141	-0.898	0.375
乳幼児心理学	0.028	0.177	0.861	-0.171	-1.098	0.279	-0.118	-0.751	0.457
教育心理学	0.060	0.383	0.704	0.031	0.198	0.844	0.135	0.862	0.394
子どもの保健	0.003	0.019	0.985	-0.003	-0.019	0.985	0.099	0.630	0.532
子どもの保健Ⅱ	0.037	0.235	0.816	0.068	0.430	0.670	-0.031	-0.196	0.845
子どもの食と栄養	0.143	0.916	0.365	0.044	0.280	0.781	-0.008	-0.052	0.959
家庭支援論	-0.043	-0.270	0.788	-0.030	-0.191	0.849	-0.034	-0.214	0.832
教育課程総論	-0.147	-0.942	0.352	-0.158	-1.010	0.319	-0.117	-0.745	0.460
保育内容総論	-0.006	-0.039	0.969	-0.094	-0.598	0.553	0.033	0.209	0.836
保育内容演習(健康)	-0.293	-1.941	0.059	-0.248	-1.622	0.113	-0.212	-1.369	0.179
保育内容演習(人間関係)	-0.078	-0.497	0.622	-0.114	-0.728	0.471	-0.013	-0.080	0.936
保育内容演習(環境)	-0.115	-0.734	0.467	-0.121	-0.771	0.445	0.000	0.000	1.000
保育内容演習(言葉)	0.071	0.453	0.653	-0.016	-0.102	0.919	0.098	0.623	0.537
保育内容演習(表現)	0.050	0.320	0.751	0.061	0.389	0.699	0.167	1.072	0.290
在宅保育	0.105	0.670	0.507	0.093	0.588	0.560	0.020	0.124	0.902
病児保育	-0.240	-1.567	0.125	-0.129	-0.820	0.417	0.179	1.151	0.257
乳児保育	0.169	1.085	0.284	0.051	0.323	0.748	0.214	1.387	0.173
絵本・お話の世界	0.203	1.312	0.197	0.145	0.929	0.359	0.134	0.853	0.399
教職実践演習(幼稚園)	-0.014	-0.089	0.929	-0.114	-0.728	0.471	0.013	0.080	0.936
子ども学ゼミ	0.605	4.811	0.000	0.489	3.545	0.001	0.579	4.490	0.000

ほとんど相関はなく、保育実習等の学外実習との相関もなかった。しかし「子ども学ゼミ」の成績だけが職場からの満足度と相関があった ($r=0.6$)。「子ども学ゼミ」は、卒業年次に開講される通年の選択必修科目であり、興味のある分野の教員のもと、ゼミ形式で学ぶ、比較的少人数で行う授業であり、卒業間近にある子ども学ゼミ発表会までの一連の活動や相互作用を通して、一人ひとりを経験する科目でもある。また長期履修コースの学生にとっては、自由選択の科目であり、「子ども学ゼミ」は、保育への意欲や積極性のある学生が履修するケースが多いと考えられる。そういったところが就職先からの満足度や将来性における評価との相関関係につながったのではないだろうか。平成29年度卒業生での早期退職者には「子ども学ゼミ」を選択履修していたものはいなかったことも興味深い。このようなことから、保育実践に直接つながるような選択科目を意欲的・積極的に履修したような学生であれば、早期離職は起こりにくいのではないだろうかと考えている。

理想的なことを言えば、保育者養成校における学業成績のよい学生が、現場でも評価の高い保育者となることができればわかりやすいが、実際にはそうではない。卒業後に保育者として保育の現場で一層貢献できる人材育成のために効果的に機能するような指導や評価の在り方を一層検討していく必要がある。

今回の調査では、保育現場での満足度と関係の深い項目は、子どもへの理解と援助といった保育技術面であったが、将来性と関係の深い項目は、職場での人間関係力、積極性、保育者としての自覚といった社会性や専門職としての部分であったことは興味深い。

今回、頂戴した自由記述のご要望やご意見の中には、コミュニケーション力、生活力、指導計画等の文章表記力の向上の必要性に関する内容があった。コミュニケーション力については、「大学の授業でもコミュニケーション能力が取得できる授業をたくさん取り入れていただければと思います。」や「クラス担任として配置していただきましたが、コミュニケーション力が弱く、職員や保護者との関係づくりについて力をつけていただく教科に力を入れていただけたらと思います。試験では、本人の特性を見抜くことは困難ですので、採用決定にあたり学校へも相談させていただけたらありがたいです。」等のご意見を頂いた。さらに「専門知識については、経験を通して身につけてくると思われる。仕事をしていく以上で最も必要なことは、協調性なので、学生の中からコミュニケーションスキルを身につけておくと職場で学ぶことは増え、そこから仕事の幅は広がっていくと思います。」というご意見も頂いた。生活力については、「自分で考えて動き出す力をつけてほしいです。生活力の向上をお願いします。(大学よりも家庭で身につけるべきですが、現場で困ります)」というご意見を頂いた。指導計画等の文章表記力については、「できれば、指導計画や支援についての文章表記の仕方等を練習及びご指導いただければ、現場に出た時に大変ありがたく思います。」というご意見を頂いた。これら全てを取り入れさせて頂き、教育的働きかけを充実させていきたい。

今回高い評価を頂いた卒業生の就職先の一つからは「対象となる職員については、実習後ボランティアを重ねて採用試験に臨んでいただきました。その結果、本人も私たちも事前情報が得られ、仕事についてや、本人の人柄についてもよくわかり、職に就いていただきました。このように就職については一定の情報と理解が双方に必要ではないかと思えます。」というようにご意見を頂いた。まさにミスマッチが起きない就職・採用のために有効な方法を示してくださっている。今後、幼稚園、認定こども園、保育園、その他の児童福祉施設等、各々で求められる資質について研究を深め、保育者として就職した先の種類別の検討も行い、学生本人の適性にあった保育現場への就職支援力を向上させていくとともに、就職検討先でのインターンシップやボランティアを推奨するなどして、就職先と学生との双方にとってミスマッチが起きないようにしていきたい。

このように、就職先の先生方からご要望やご意見を頂戴できることは、保育者養成校にとって大変ありがたいこ

とである。今後も保育者として保育の現場で役立つ人材育成をめざして、保育の現場の先生からのご指導を賜りながら、教育的働きかけを一層充実させていきたいものである。

謝辞

調査にご協力頂きました幼稚園、保育所、認定こども園、児童福祉施設などの先生方に心より感謝申し上げます。卒業生の皆様にも感謝申し上げますとともに、皆様のご多幸を心から願っております。

引用文献

- 1) 高岡昌子、林悠子、高橋千香子、岩本健一 (2017) 新人保育者に必要な資質について－新人保育者に対する総合的な評価につながる具体的な資質－. 奈良学園大学奈良文化女子短期大学部紀要第48号：41-49.
- 2) 高岡昌子、飯田恵美子、岩本健一、小川純子、高橋千香子、林悠子 (2018) 新人保育者に対する評価 ～前年度との比較を通して～ 奈良学園大学奈良文化女子短期大学部紀要第49号：49-60.
- 3) 前迫ゆり、中田奈月、智原江美、高岡昌子、石田慎二、福田公教 研究紀要 (2004) 地域の子育て環境づくりに向けての保育者養成校の課題と視座－奈良県内保育所の実態調査を通して－ 奈良佐保短期大学研究紀要12号：27-44.
- 4) 林悠子、森本美佐、東村知子 (2012) 保育者養成校に求められる学生の資質について－保育現場へのアンケート調査より－. 奈良文化女子短期大学紀要第43号：127-134.
- 5) 林悠子、森本美佐 (2014) 保育者に求められる学生の保育実践能力と資質について. 奈良学園大学奈良文化女子短期大学部紀要第45号：123-130.
- 6) 林悠子、高橋千香子、高岡昌子、岩本健一 (2016) 保育者養成に求められる保育者の資質について (2)－就職先へのアンケート調査の前回調査との比較から－. 奈良学園大学奈良文化女子短期大学部紀要第47号：71-80.
- 7) 吉田明史、磯辺ゆう、恒岡宗司、青山雅哉、小川純子、高岡昌子、岩本健一、林悠子、飯田恵美子、高橋千香子、中田章子、筒井通子、森本美佐 (2019) 奈良学園大学奈良文化女子短期大学部教学報告. 奈良学園大学奈良文化女子短期大学部